

# 夢は叶えるためにある

校長 駒田 勝

今夏は、南米ペルー沖のラニーニャ現象の影響を受けて猛暑となる可能性が高いとのこと。こまめな水分補給を心がけ、十分な健康管理をお願いします。

さて、皆さんは 寺田 寅彦 という人を知っていますか。少しだけ彼について紹介しておきます。寅彦は、明治から昭和初期にかけて活躍した東京帝国大学の物理学者です。「金平糖の角の研究」や「ガラスの割れ目の研究」などはよく知られ、身近な物理現象を対象とした研究は、「寺田物理学」とも呼ばれています。また、高校時代には、当時英語の教員として勤務していた夏目漱石に出会い、漱石を介して正岡子規や高浜虚子などの文人とも交流を持ち、影響を受けたとも言われています。そんな彼は、自然科学以外の分野にも造詣が深く、多くの随筆を残しています。彼の「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉は、皆さんも聞いたことがあるのではないですか？ 余談ですが、漱石の著書「吾輩は猫である」の水島寒月は寅彦がモデルだと言われています。

少々前置きが長くなりましたが、ここからが本題です。

**「捨てた一粒の柿の種 生えるも生えぬも 甘いも渋いも 畑の土のよしあし」**という寅彦の言葉があります。彼自身は「捨てた種」と表現していますが、意識して様々な種を蒔いていたようです。実際、寅彦から得た「学術の種」を大切に育てた多くの人々が、各界で活躍をしました。

実は、皆さんの周りにも、様々な種が蒔かれているはずです。先生方が意識して蒔いた種もあれば、友達が無意識に蒔いた種、地域に蒔かれた種など、様々な種があるはずです。意識して周囲を見渡し、「興味ある種」は拾い上げてみましょう。その種を発芽させ、大きく育てるためには、それに見合った肥沃な土壌（進路先）が必要となります。「興味ある種」を手にした皆さんの進むべき場所がどこにあるのか。今、何をすべきなのか等々、必要な情報を自ら探してみましょう。手持ちのタブレット等を活用するのはもちろんですが、進路指導室や図書室でも探してみましょう。情報がきっとあるはずです。とりわけ、進路指導部の先生方は「進路指導のプロ」です。足しげく出向き、まずは顔を覚えてもらいましょう。また、分からないことは分かるまで尋ねてみましょう。貴重な情報が得られ、やるべきことが見えてくるはずです。目標が

あってこそ、努力できるというものです。

手にした種を育てる土壌（進路先）は、人によって異なるはずですが、自分にぴったり合った土壌に出会ってこそ、将来「実のなる大樹」に育つというものです。また、「夢は叶えるためにある」とも言います。

在校生の皆さん、にわかには実現が困難だと思われる種であったとしても、小成に安んずる事なく、興味・関心があればまずは拾い上げ、大事に育ててみましょう。いずれ「実のなる大樹」となり、今は想像もできない道が開けることになるかもしれません。

ところで、先日の神戸新聞に「パリ五輪マウンテンバイク女子」の日本代表に選出された川口うららさん（本校71回生）が紹介されていました。川口さんは、小学校4年生のときに同級生に勧められて競技を始めたそうです。本校ではバスケットボール部に所属しながらも競技を継続し、この頃から世界で活躍したいと想着ていたと川口さんは語っています。まさに「夢は叶えるためにある」を体現された偉大な先輩が身近なところにいることは、私たちの大きな励みとなるところです。

因みに、本年度の本校のスローガンは「知を創造する人づくり」です。皆さんには、様々な分野で国や世界をリードする人材に育ててもらいたいものです。

なお、今年は、十干十二支で「甲辰の年」です。甲辰の年は、①新しいことを始めて成功する。②いままで準備してきたことが形になる。といった縁起のよい年だそうです。新たな事に挑戦するには、最も良い年といえるようです。